

佐渡市長賞

ふるさと納税とそのお金の使われ方

佐渡市立佐和田中学校 3年 本間 縁

税金を支払いたくないという人が少なからずいるこの世の中で、改めて税金の重要性を考えさせられている。税金がないと、子どもの医療費が全額親の負担になってしまったり、国が高齢者に対して年金を支払うことができなくなってしまうかもしれない。日本には、「ふるさと納税」というシステムが存在する。これは、地方自治体に税金を納めて、返礼品として特産物をもたらすというものである。多くの人が地方のふるさとで生まれ、その自治体から医療や教育等様々な住民サービスを受けて育ち、やがて進学や就職を機に生活の場を都会に移し、そこで納税を行っている。結果、都会の自治体は税収を得るが、自分が生まれ育った故郷の自治体には税収が入らないのだ。そのとき、今は都会に住んでいても、自分を育ててくれたふるさとに、自分の意思で、いくらかでも納税できる制度があっても良いのではないかという問題提起から始まって、数多くの議論や検討を経て生まれたのが「ふるさと納税」なのだ。自分は、この「ふるさと納税」をもっと広めて、地域の活性化や人口減少などの課題解決に取り組んでいきたいと考えている。「ふるさと納税」は、自分が住んでいる場所だけではなく、旅行に行った思い出のある場所などにも納税を行うことができる。また、前述の通りで返礼品もあり、地元のお酒や果物などの特産品が納税した自治体からもらうことができる。つまり、自治体からするとその場所の特産品を全国に広めることができ、その特産品を求めて全国各地から人が来る。これなら一石二鳥といえるだろう。また、「ふるさと納税」は、被災地支援、子育て支援、動物愛護、環境保全、産業振興などを目的としてお金を納めることができる。これらの中から使い道を選べば、納税者の意思が反映されることとなる。この場合「納税」というよりも「寄付」といったほうが正しいかもしれない。しかし、税金の無駄遣いをしているという現実もある。なんと2,108億円もの税金が無駄遣いされたとのことだった。これでは消費税を10パーセントに引きあげた理由に納得がいなくなるだろう。国民にとてつもない額の税金を支払わせておいて無駄遣いはおかしな話だ。また、数年前には政治家が私用に税金を使ったとの報道があった。これについてはもう、怒り心頭を通り越して呆れてしまう。これ以上このようくだらないことに税金を使うのであれば、今よりもっと税金を支払いたくない人が増え、何十年かした頃には「ふるさと納税」というものは変な文化として残ってしまうのではないかと思っている。

国や政治家にはもっと正当な税金の利用方法を考え、今後の日本がよりよい生活となるようにしてほしい。そして自分たち国民も、納税の義務をしっかりと果たし、さらに「ふるさと納税」などを広めていけたらと思った。